

第3回香川県がん診療連携協議会院内がん登録部会がん登録実務者会議事要旨

1. 日 時 平成21年12月25日(金) 13:30~15:10

2. 場 所 三豊総合病院 管理棟3階 医局カンファレンス室

3. 配布資料

第3回香川県がん診療連携協議会院内がん登録部会がん登録実務者会議事次第

「院内がん登録の仕組み」三豊総合病院・企画情報室・・・資料1

「院内がん登録との連携について」がん情報・統計部地域課がん登録室・・・資料2

4. 議 事

三豊総合病院陶山がん診療統括部長から登録業務において施設間連携の必要性について説明があった。また、陪席予定である香川県健康福祉部の着席が遅れるとの連絡があったため、議事進行の変更を行うこととなった。

(1) 「院内がん登録の仕組み」三豊総合病院・企画情報室

資料1に基づき、三豊総合病院の院内がん登録の仕組みについて説明があった。電子カルテとの連携、医師代行入力の手法等実例を挙げた説明がなされた。

(2) 「対がん祖父江班21年度標準DBS管理者説明会報告」香川県地域がん登録室

香川大学医学部附属病院から資料2に基づき、HosCanRの地域がん登録用出力機能を活用することの有用性について説明があった。

(3) 2007年症例院内がん登録全国集計分析

香川大学医学部附属病院から、11月7日集計報告書では各施設ががん診療状況を把握するのは困難で、課題分析の基礎資料にはなり得ない、ならば、香川県においては、5拠点病院全てがHosCanRの品質管理ツールを活用し、それを標準的な集計手法と位置づけ、各施設の傾向を分析することの方が利用価値のあるデータになるのではないかとの提案があった。また、施設によって、がん登録の経緯や背景が異なることを理解しているとした上で、5拠点病院が折角揃って導入したHosCanRを活用すべきであると強調した。

(4) 香川県地域がん登録票の収集について

香川県地域がん登録室から登録票の受理件数(速報値)の報告があり、標準DBSにインポート後のエラー出現について例示し、各施設別に対応をお願いした。また、香川県外居住者の登録票の受理に関して香川県はどのように捉えているか、受理した電子媒体の保管義務が生じるのかについて、意見を質した。香川県健康福祉部からは、要綱の見直しに係る事項である、電子媒体の保管については、情報のインポート後に‘空’にして届出施設に返却することも運用としては可能ではないかとの発言があり、双方が検討して、平成22年2月開催予定のがん登録部会まで結論を出すことにした。

(5) 2008年症例院内がん登録情報提出対応について

香川大学医学部附属病院から12月22日(火)に開催された「院内がん提出手順説明

会」資料に基づき説明があった。HosCanR Ver. 3 の公開は平成 22 年 1 月～2 月であること、品質管理ツールの更新が頻回になされていること、提出期限が平成 22 年 2 月 26 日必着であること、同年 3 月に個別照会が実施されること等が報告された。

(6) 生存確認調査について

各施設とも、2009～2010 年症例がん登録の上に生存確認調査が重なるため、過重な業務になることは必至である。院内がん生存確認調査に地域がん登録情報が利用可能か、また、いかに住民票照会件数を減らすか、そこに至るまでに何か手立てはないかという見識で一致している。このことに関して、三豊総合病院から拠点病院間の連携、情報交換の構築について発案があった。医師間では情報の授受があるものの、全てを把握できているとは言い難い。また、がん登録実務者の相互（1 対 1）間で完結する問題でもない。そこで、がん登録実務者として、各施設において、自施設としてはどんな形態なら提供できるか検討し、1 月下旬を目途に実務者会運営担当病院に報告することとした。

三豊総合病院陶山がん統括部長から医師としての経験から、生存確認調査が一番時間がかかる部分で、登録実務者においても拠点病院間の連携を図る提案について前向きに検討すべき事項であると補足された。

(7) その他

次回のがん登録実務者会は、平成 22 年 4 月下旬～5 月中旬、場所は香川労災病院において開催することで調整することとなった。

以上